



各 位

NPO放送批評懇談会（担当：中島／高橋）

Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

＜速報＞第49回ギャラクシー賞入賞作品決定

平素より当会にはご理解ご支援を賜り、ありがたく御礼申し上げます。

テレビ、ラジオの番組、関係者に贈る賞として49年の歴史を誇る「ギャラクシー賞」の、今年度の入賞作品が決定しました。

テレビ部門、ラジオ部門、CM部門、報道活動部門の入賞作品は別紙のとおりです。各部門とも、この入賞作品の中から、大賞、優秀賞、選奨が選ばれ、6月4日に開催する贈賞式で発表、表彰いたします。志賀信夫賞、テレビ部門個人賞、ラジオ部門DJパーソナリティ賞は以下の通り確定いたしました。

■志賀信夫賞

植村伴次郎 東北新社最高顧問

■個人賞

小泉今日子 木曜劇場「最後から二番目の恋」(フジテレビ)、連続ドラマW「贖罪」(WOWOW)の演技

■DJパーソナリティ賞

吉田尚記 「ミュ〜コミ+プラス」(ニッポン放送)パーソナリティとして

＜贈賞式日程＞

日時 2012年6月4日(月曜日) 贈賞式 16:30～18:30

会場 ウェスティンホテル東京 ギャラクシールーム

東京都目黒区三田1-4-1(恵比寿ガーデンプレイス内) Tel. 03-5423-7000

志賀信夫賞、個人賞、DJパーソナリティ賞を、ぜひ記事にお取り上げいただくとともに、6月4日の贈賞式をご取材いただき、各部門の受賞作品を報道いただくようお願い申し上げます。

第49回ギャラクシー賞入賞作品一覧

[2011年4月1日 ~ 2012年3月31日]

◎志賀信夫賞

植村伴次郎

◎テレビ部門

- ※ テレメンタリー2011 “3.11”を忘れない①「続・命てんでんこ〜津波と歩んだ人生」
岩手朝日テレビ
- ※ ETV特集「ネットワークでつくる放射能汚染地図〜福島原発事故から2ヶ月」
日本放送協会
- ※ 「鈴木先生」
テレビ東京 「鈴木先生」製作委員会
- ※ NHKスペシャル「果てなき苦闘 巨大津波 医師たちの記録」
日本放送協会
- ※ 「世界が私を待っている〜前衛芸術家 草間彌生の疾走」
日本放送協会 NHKエンタープライズ ホームルーム
- ※ 「それでも、生きてゆく」
フジテレビジョン
- ※ 「階段のうた season4」
TBSテレビ イースト・エンタテインメント
- ※ 「カルテットという名の青春〜太郎、マドカ、麻理子、大と歩いた1371日」
ピーエス朝日 テレビマンユニオン
- ※ 「死刑弁護士」
東海テレビ放送
- ※ ハイビジョン特集「しあわせのカタチ〜脚本家・木皿泉 創作の“世界”」
日本放送協会 NHKエンタープライズ スローバンド
- ※ NHKスペシャル シリーズ原発危機「知られざる放射能汚染〜海からの緊急報告」
日本放送協会
- ※ 「世界の果てまでイッテQ! イモトが挑む南米大陸最高峰アコンカグア登山スペシャル」
日本テレビ放送網
- ※ ETV特集「花を奪る 石牟礼道子の世界」
日本放送協会 NHKプラネット九州
- ※ 連続テレビ小説「カーネーション」
日本放送協会

特別賞

ETV特集「ネットワークでつくる放射能汚染地図」シリーズ
日本放送協会

個人賞

小泉今日子

木曜劇場「最後から二番目の恋」(フジテレビ)、連続ドラマW「贖罪」(WOWOW)の演技

◎報道活動部門

- ※ 絆いわて「ふるさとは負けない!」キャンペーン
IBC岩手放送
- ※ 市営散弾銃射撃場鉛汚染問題における一連の報道
伊万里ケーブルテレビジョン
- ※ オムニバス・ドキュメンタリー「3・11大震災 記者たちの眼差し」I~IV
TBSテレビ
- ※ キャンペーン“司法シリーズ”開かれた司法へ
東海テレビ放送
- ※ 「子どもを守れ!」キャンペーン
日本放送協会
- ※ NNNドキュメント'11~'12「3・11大震災シリーズ」における計31本の番組制作と一連の報道活動
日本テレビ放送網

◎ラジオ部門

- ※ 「浅川マキ〜ロング・グッドバイ」
北陸放送
- ※ うんとこしょ、どっこいしょ〜株式会社「大宮産業」奮闘記
高知放送
- ※ 「久米宏 ラジオなんですけど」
TBSラジオ&コミュニケーションズ
- ※ ラジオドラマ「鉄になる日」(小松左京著「日本アパッチ族」より)
毎日放送
- ※ ABC創立60周年記念ラジオ時代劇「元禄・堂島米市場蜃舞〜平成に近松の幽霊が甦る」
朝日放送
- ※ 「J-WAVE SPECIAL VERMEER, 37STORIES〜光の王国」
J-WAVE
- ※ SCHOOL OF LOCK! 「SCHOOL OF LOCK! ×高橋優「もうひとつの卒業式〜福島県 南相馬」」
エフエム東京
- ※ ラジオドキュメンタリー「消えた月光仮面」
北海道放送

DJパーソナリティ賞

吉田尚記

「ミュ〜コミ+プラス」(ニッポン放送) パーソナリティとして

◎CM部門

- ※ AIC 得子ちゃん・オーダールーム シリーズ「得子ちゃん高田さん その1」「オーダールーム 石川さん その3」「得子ちゃん 店員さん」他
AIC 電通九州 VSQ
- ※ ACジャパン 震災臨時キャンペーン「サッカー篇」
ACジャパン 読売広告社 オニオン
- ※ ACジャパン 地域キャンペーン あいさつの励行「こたまでしょうか」
ACジャパン 電通 葵プロモーション
- ※ カルチュア・コンビニエンス・クラブ 映画レンタル「OTONA TSUTAYA」
カルチュア・コンビニエンス・クラブ 博報堂 ロボット
- ※ グーグル 未来へのキオク「未来へのキオク Want篇」
グーグル 博報堂ケトル 博報堂 葵プロモーション
- ※ サントリーホールディングス 企業 シリーズ歌のりレー「見上げてごらん夜の星をA」「見上げてごらん夜の星をC」「上を向いて歩こうC」「上を向いて歩こうA」
サントリーホールディングス 歌でつなごうプロジェクト委員会 シンガタ goen 電通 博報堂 大広 読売広告社 電通アドギア ギークビクチュアス 東北新社
- ※ サントリーホールディングス BOSSゼロの頂点 シリーズ「特報A篇」「評論家A篇」「取材B篇」「メイキングA篇」「ホスター篇」「テロップ篇」
サントリーホールディングス シンガタ 電通 ミスターデザイン ギークビクチュアス
- ※ ソフトバンクモバイル 企業 白戸家「連続CM小説篇」
ソフトバンクモバイル シンガタ 電通 トレードマーク ギークビクチュアス
- ※ 東海テレビ放送 公共キャンペーン・スポット「食卓を守れ〜ニッポンの農力」
東海テレビ放送 電通中部支社
- ※ トヨタマーケティングジャパン 企業 シリーズFTDA「ReBORN篇」「出発篇」「宇都宮・餃子篇」「ヒッチハイク篇」「ハワイアンズ篇」
トヨタマーケティングジャパン シンガタ ワンスカイ 電通 トレードマーク ギークビクチュアス
- ※ 日本コカ・コーラ アクエリアス「AQエモーショナル Three Kings篇」
日本コカ・コーラ 電通 電通クリエイティブX
- ※ パナソニック LED電球シリーズ「探偵ルーメン1〜5篇」
パナソニック 博報堂 ハット
- ※ ライオン 企業 歯ブラシ家族シリーズ「お兄ちゃん」「未来の家族」「息子と母親」
ライオン 電通 エンジンプラス

特別賞

三陸に仕事を!プロジェクト実行委員会 浜のミサガ「環」 岩手・宮城誕生篇
三陸に仕事を!プロジェクト実行委員会 仙台博報堂 ASTRAKHAN

●テレビ部門は上記ノミネート14本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨10本が選出されます。●ラジオ部門は上記ノミネート8本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨4本が選出されます。●CM部門は上記ノミネート13本から、大賞1本、優秀賞2本、選奨10本が選出されます。●報道活動部門は上記ノミネート6本から、大賞1本、優秀賞2本、選奨3本が選出されます。●最終選考の結果は、6月4日(月)開催「第49回ギャラクシー賞贈賞式」で発表、表彰されます。●テレビ、ラジオのノミネートは放送日順、CMは広告主企業名五十音順、報道活動は申込社(者)名五十音順に記載。

詳しい結果は6月6日(水)発売の「GALAC」2012年7月号に記載いたしますので、ご覧ください



第49回ギャラクシー賞 贈賞式 取材要領

2012年6月4日(月曜日)

ウェスティンホテル東京「ギャラクシールーム」

取材受付15:15、取材開場15:30、開演16:30

取材要領

- ギャラクシー賞贈賞式の取材をご希望の方は、申込書に必要事項をお書き込みのうえ、ファクスでお申し込みください。事前にお申込のない取材はお受けできません。
- スペースの都合により1紙/誌につき1人(カメラ別)、1番組につき1クルーでお願いします。
- 撮影希望者(スチール、ムービーとも)は、15:15までに取材受付にご集合ください。(カメラ位置は抽選で決定。ただし申込多数の場合は、抽選によって会場にお入りいただけない場合があります。ご了承ください。)

第49回ギャラクシー賞取材申込書 Fax. 03-5379-5510

ギャラクシー賞贈賞式の取材を申し込みます。

会社名	
媒体名/番組名	
住所 〒	
担当者	Tel.
Email	Fax.
取材人数	スチールカメラ あり なし テレビカメラ あり なし



ギャラクシー賞の概要

◆歴史および概要◆

1963年、民放草創期のこの時期に、テレビとラジオの可能性、影響力に着目し、その発展には必ず“批評”の力が必要であると考えた評論家、研究者、ジャーナリスト、作家らの有志によって創設された放送批評懇談会。ギャラクシー賞は、志ある番組を掘り起こし、制作者たちの番組作りへの情熱に光を当てて顕彰することで現場を鼓舞し、番組の向上・発展を促すことを目的に、会の発足と同時に誕生した。民間の自主的意思を基盤として創設された放送賞の第一号である。表彰は1年単位で、今年で第49回（2011年度）。

ギャラクシーの名は、放送批評懇談会設立の核となった渋谷秀雄、内村直也、梅田晴夫そしてトロフィーをデザインしたガラス作家・岩田糸子らによって考案された。天の川、銀河の訳のほか、佳人・才子の華やかな群れという意味を持ち、放送界にきらめく才能を表すのにふさわしいものとして選ばれた。

◆賞の特徴◆

ギャラクシー賞設立時には、すでいくつかの放送賞が存在したが、その多くは「コンクール用に盛装を凝らしたものを対象にした記念行事」（故・白井隆二）だった。白井らは、テレビやラジオが日常に根ざした媒体であることを強く意識し、年間を通じてテレビを視聴しラジオを聴いて番組を批評することを賞の大前提に掲げた。その志は49年を経た現在まで貫かれ、放送批評懇談会正会員の自主的な視聴活動が賞の土台となっている。

テレビ部門では、審査を担当する選奨委員により月評会（毎月）が開催され、月間賞が選出されている。ラジオ部門も月例会を持ち番組を論じ合う。これらの内容は毎月、月刊誌「GALAC／ぎらく」に掲載される。こうした活動により、“放送の現在に向き合う賞”として独自の地歩を固めている。

◆賞の内容◆

テレビ部門、ラジオ部門、CM部門、報道活動部門の4部門制。テレビ部門は月間賞のほか、年2回参加作品募集を行い、両者をあわせた中から年間賞を選出。ラジオ、CM、報道活動は年2回参加作品を募集し、それに審査員の推薦作品を加えて選考し、年間賞を選出。

受賞枠は、＜テレビ部門＞大賞1、優秀賞3、選奨10、特別賞1、個人賞1、＜ラジオ部門＞大賞1、優秀賞3、選奨4、個人賞またはDJパーソナリティ賞1、＜CM部門＞大賞1、優秀賞2、選奨10、＜報道活動部門＞大賞1、優秀賞2、選奨3。ほか、周年には記念賞を設ける場合がある。

また、放送批評懇談会がNPOとなったことを記念して、第44回（2006年度）から視聴者が選考に参加するマイベストTV賞を新設した。



◆審査と表彰◆

時代性に優れ、ジャーナリスティックな感覚を持ちえていること、かつ作品として普遍的な力量を備えていることの二点が選考の柱。放送批評懇談会正会員によって組織する選奨事業委員会が審査を担当。表彰式は、毎年6月初旬に行われる。受賞者には、銀河をイメージしたガラス製のトロフィーと表彰状が授与される。

「志賀信夫賞」について

■放送批評懇談会が2013年に設立50周年を迎えるに先立ち、会の設立から発展に貢献のあった日本の放送批評のパイオニア志賀信夫氏（現名誉会長）の長年にわたる放送界への功績を記念して、志賀信夫賞を新設することとしました。

■本賞は、これまでのギャラクシー賞が受賞対象とする番組制作という枠にとどまらず、広く放送の発展に貢献する大きな業績を成し遂げた個人を表彰します。したがって番組制作だけでなく、放送局やプロダクションの経営、番組制作の支援や放送周辺の分野、放送を中心とするメディアに関わる研究や批評活動など、幅広い分野で近年大きな功績のあった方々を顕彰し、放送の更なる発展に役立てる意図があります。

■志賀信夫 しが・のぶお／放送評論家。1929（昭和4）年福島県生まれ。53年早稲田大学大学院文学研究科修了。57年同大学講師。60年放送評論家として独立。63年放送批評懇談会の設立に参加、理事、78年同理事長。79年共立女子大学講師。81年メディアワークショップ代表理事。85年ビデオ映像文化振興財団理事。90年多摩大学講師。NAB（全米放送事業者協会）東京セッション実行委員会会長、文化庁芸術祭審査委員、NHK演出審議委員等を務める。「デジタル時代のパイオニア」（源流社）、「BS/CS衛星放送新時代」（電波新聞社）、「映像の先駆者125人の肖像」（NHK出版）など著書多数。自薦の優れた番組の評論を記録し、関係者の証言を集めるなどした「年間テレビベスト作品」を30年にわたり出版。2003年には、テレビ評論の分野で初めて芸術選奨を受賞。



NPO/特定非営利活動法人 放送批評懇談会

JAPAN COUNCIL FOR BETTER RADIO AND TELEVISION

■創立 NPO放送批評懇談会=2005年5月2日（任意団体放送批評懇談会=1963年4月）

■会勢 正会員186名 維持会員132社

■役員

名誉会長=清水英夫 理事長=音好宏

専務理事=橋本隆（総務担当） 常務理事=上滝徹也（ギャラクシー賞テレビ部門委員長）、小田桐誠（選奨事業委員長）、藤田真文（企画事業委員長）

理事=丹羽美之（出版編集委員長）、桜井聖子（ギャラクシー賞ラジオ部門委員長）、五井千鶴子（ギャラクシー賞CM部門委員長）、碓井広義（ギャラクシー賞報道活動部門委員長）、滝野俊一（マイベストTV賞プロジェクトリーダー）、飯田みか、石井彰、市村元、入江たのし、兼高聖雄、川喜田尚、隈部紀生、河野尚行、坂本衛、嶋田親一、稗田政憲、山田健太、中島好登（事務局長）

監事=田代勝彦 原由美子 名誉会員=志賀信夫

■目的および事業

この法人は、広く一般市民を対象として、視聴者と放送局・放送制作者が手を携え、放送に関する公平・中立な批評活動等を行い、豊かで優れた番組の創造および放送文化の振興を図り、市民が正確で信頼できる情報を享受し、市民の生活文化の発展に寄与することを目的とする。

■主な活動

放送の専門誌 [GALAC/ぎやらく] の編集・発行

放送批評の育成・振興を目的に、放送や番組を様々な角度から問題を取りあげ、研究するテレビ・ラジオの専門誌。番組批評のパイオニア。1967年創刊の「放送批評」誌をリニューアルして、97年5月刊行。

日本を代表する番組賞 [ギャラクシー賞] の選定・表彰

本会創立と同時に1963年に設立された番組賞。審査には本会正会員自身があたり、月間で定例会を持つなど日常性を重んじた丹念な選考作業が特徴。毎年4月から翌3月が対象。テレビ、ラジオ、CM、報道活動の四部門制。それぞれ大賞、優秀賞、選奨、特別賞などを選出。個人賞、DJパーソナリティ賞は個人に贈られる。

視聴者参加型 [ギャラクシー賞マイベストTV賞] の運営・表彰

本会がNPOになったのを記念して誕生した、視聴者が視聴者の手でベスト番組を選ぶテレビ番組賞。毎月投票でノミネート番組を選び、年間で一本を選出。初のグランプリはNHK「ハゲタカ」に贈られた（2006年度）。2012年、ポータルサイト最大手のYahoo!とのコラボレーションが成立。Yahoo!JAPAN IDでもグランプリ投票が可能になり、視聴者賞として大きな飛躍を遂げる。

[放懇シンポジウム/放懇セミナー] の企画・開催

激変する放送事情に対応すべく、その時々に関心事をテーマに、当事者、専門家、研究者とともに放送を考える場を提供し、放送界に積極的な提案、提言を行なう。